



佐藤クリスタル

# 国際交流員コーナー

## CIR's Corner

2025年7月 - 第38号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

### 今月のテーマ:アイスクリーム

アイスクリームは世界中の人々に愛されています。私の故郷のアメリカは、アイスクリームの1人当り年間消費量の最も多い国の一つです。アイスクリームは9割以上のアメリカ人に食べられているということから、1984年にレーガン大統領は、公式に7月を「アイスクリーム月間」とし、7月の第3日曜日に「アイスクリームの日」を制定しました。アイスクリームの日に、全国のアイスクリームの店は特別なキャンペーンやセールを実施しています。せっかく今月はアイスクリーム月間なので、アイスクリームについて書きます。



#### アイスクリームの歴史

アイスクリームはいつどこで発明されたかは明確ではありません。古代から世界各地に氷室がありました。夏の暑さをしのぐために、中国、インド、中東アジアなどで冷たい水牛乳やヤギ乳を飲んだり、氷にはちみつをかけ、かき氷のようなデザートを食べたりしていました。日本でも、かき氷は平安時代から食べられています。

氷が溶けると、周囲から熱を奪います。氷に塩を混ぜると、溶ける温度が0℃以下まで下がります。それに液体などが入った容器や瓶を入れると、中身を凍らせることができます。人間がいつからその科学的な現象を知っていたかは分かりませんが、13世紀にアラブ人の医学歴史家が初めて本に記載しました。当時は、主に薬を保存するためにこの知識を応用しましたが、16世紀からインドで陶器の器の中に入った練乳を凍らせました。それは今でも食べられており、「クルフィ」と呼ばれています。17世紀から、ヨーロッパでシャーベットやアイスクリームが作られました。



左:インドの伝統的なアイス、「クルフィ」。この写真はマンゴーとサフラン味。



右:ワシントン大統領のアイスクリームメーカーの一つ。10個あったらしい。

その後、18世紀に、入植者がヨーロッパからアメリカにアイスクリームを作る文化を持って行きました。初代大統領のワシントン大統領はアイスクリームが大好きで、アイスクリームメーカーや容器を多く所有しました。第3大統領のジェファソン大統領は、フランスで食べたバニラアイスの作り方を記録し、そのレシピは初めてアメリカ人に書かれたアイスクリームのレシピでした。

1904年のセントルイス万国博覧会で、アイスクリームコーンが人気商品になりました。ボウルとスプーンで食べるよりも、丸めたワッフルにアイスを入れ、容器ごと食べる方がお客さんにとって食べ歩きに最適でした。そして、アイスを販売していた屋台にとって、お皿を洗わなくて済んだので、仕事が楽になりました。



1904年のセントルイス万国博覧会で、アイスクリームコーンを食べている  
お母さんと子どもたち

ところで、日本で初めてアイスクリームコーンを食べた時に、スプーンも渡されて、混乱しました。アメリカでは絶対渡されません。なぜかという、アイスクリームコーンはなめて食べるものだからです。片手で食べるのはとても便利です、ごみも出ません。アメリカ人の多くは、アイスのスプーンで食べたいのなら、コーンではなく、カップで注文すれば良いと思っています。

### 世界中のアイスクリーム消費

アメリカはアイスクリームの1人当り年間消費量の最も多い国の一つですが、実は、アメリカよりアイスを食べている国がいくつかあります。



ニュージーランドの「ホーキーポーキー」アイス

世界1位は、ニュージーランドです。ニュージーランドで、アイスクリームの1人当り年間消費量は20.1リットルです。バニラが一番人気の味ですが、2番目はニュージーランドで有名な「ホーキーポーキー」という味です。バニラアイスにキャラメルキャンディーが混ざっています。ニュージーランドでは、固いキャラメルを「ホーキーポーキー」といい、様々なお菓子に使われています。

2位はオーストラリアです。ニュージーランドに地理的に近いので、アイスクリームの1人当り年間消費量も近いです。19.4リットルになっています。

3位はフィンランドで、1人当り年間消費量は14.3リットルです。フィンランドはアメリカよりアイスを食べていることを知って、正直驚きました。とても寒いイメージですが、熱いサウナの後にアイスを食べているかもしれません。

4位はアメリカで、1人当り年間消費量は13リットルです。アメリカのスーパーで販売しているアイスのパッケージは、一番小さいサイズが「pint」で、約473mlです。日本でよく食べられているハーゲンダッツのミニカップの4倍以上の量ですが、これは一人前だと思われています。アメリカ人に一般的に購入されているサイズは「half gallon」で、約2リットルです。子どもの時に、家族や友達の冷凍庫を開くと、アイスのhalf gallonはほぼ100%の確率で見つかりましたが、最近「シュリンクフレーション」の影響で、アイスクリームのパッケージが小さくなってきており、ネットで話題になっています。シュリンクフレーションとは、shrink(収縮)とinflation(インフレ)の合成語で、日本語で「ステルス値上げ」とも呼ばれています。



左はコストコで販売している half gallon(1.89リットル)ですが、右は一般的なスーパーで最近販売している1.5 quart(1.42リットル)です。

5位は、イタリアです。「ジェラート」という味が濃く、脂肪分が比較的到低いアイスクリーム(日本でアイスマルクに分類される)で有名です。伝統的な味は、カスタード、バニラ、チョコレート、ヘーゼルナッツ、

アーモンド、ピスタチオです。イタリアで1人当り年間消費量は11.9リットルですが、上記の国と違って、イタリア人は大抵アイスを外食しています。なぜかという、「ジェラテリア」というジェラート専門店が非常に多いからです。日本でいうと、コンビニよりも多いかもしれません。



ジェラテリアの様子

気になる日本のランキングですが、日本は22位で、1人当り年間消費量は6.7リットルです。皆さんは、アイスをどのくらい食べていますか？

他の国のランキングを見たかったら、[日本アイスクリーム協会のサイト](#)をご覧ください。

### 和製英語



日本語で「アイスクリーム」を「アイス」として省略することが多いですが、英語で「ice」は「氷」という意味です。お店の店員さんに「I would like some ice」と言うと、アイスクリームではな

く、氷をくれます。「Ice cream」を言わないと通じないので、旅行中の際、気をつけてください。

日本では、「サーティワンアイスクリーム」という人気のアイスクリームチェーン店があり、「サーティワン」と呼ばれています。しかし、この店の看板をよく見ると、「Baskin-Robbins」(バスキン・ロビンス)が書かれていることに気づきます。実は、このチェーン店はアメリカの会社で、本当の名前は「Baskin-Robbins」です。アメリカ人は「Baskin-Robbins」と呼んでいるため、「サーティワン」はアメリカで通じません。最初31種類のアイスクリームがあったため、英語のキャッチコピー「31 Flavors」のことから、日本語で「サーティワン」と名付けられたと思いますが、

日本に長く住んでいてもその名前に慣れません。



「Baskin-Robbins」は「サーティワンアイスクリーム」より大きく見えますが…

最後に、日本の各地でソフトクリームが売られており、観光地はメロンやラベンダーなどのユニークな味を提供しています。ソフトクリームは1926年にアメリカで発明されて、今でもとても人気です。しかし「ソフトクリーム」と呼ばれていません。英語で、商品の名前は「soft-serve ice cream」で、それを略して「soft serve」(ソフトサーブ)と呼ばれています。日本語で「ソフトクリーム」と言うのも「soft-serve ice cream」の省略ですが、省略の仕方が違うだけで英語圏の人に通じないのは和製英語の面白いところだと思います。

ちなみに、私が初めて日本でソフトクリームを食べたのは、函館で留学中の時でした。「ソフトクリームを食べに行こう」とホストファミリーに誘われ、何かわからなくて、「日本の特別なデザートなのかな?」と思いました。「えっ、ただのsoft serveなの?」と少しがっかりしましたが、北海道のソフトクリームはとてもクリーミーで、アメリカの soft serve より美味しいと思いました。

そして、アメリカから友達が日本に遊びに来た時、友達とソフトクリームを食べに行きました。チョコバナラのミックス味があったので、大変喜んでいました。「アメリカでこの味は珍しい」と言っていました。2週間その友達と本州を旅行していましたが、チョコバナラミックスのソフトクリームを見ると、友達は必ず買いました。改めて、アメリカ人は本当にアイスが好きだなあと思いました。★



お問合せ先  
教育部 生涯学習課 国際交流員  
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6  
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434